

平成 23 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

(1) 教育目標

より高きをめざす「尚美」の精神に根ざし、豊かな教養を身に付けさせ、ものづくりを通して新しい時代の創造をになう、自主自律の気風に富んだ健康でたくましい人材の育成をめざす。

(2) 教育方針

- ア. 学力を充実させ技術の練磨を図る
- イ. 公正な判断力を身に付けさせるとともに社会性を育成する
- ウ. 礼節を重んじ、心身を鍛える
- エ. 勤労意欲と責任感の涵養を図る
- オ. 豊かな感性を育むとともに個性を伸ばし、創造性の育成を図る

2 学校の特徴

本校は、平成22年4月より二上工業高校と統合し工業系5科、芸術系2科を持つ工業系専門高校として、より高きを求めてやまぬ「尚美」の精神のもと、ものづくり・作品づくりを通して生徒の人格陶冶と自己実現を旨とする教育活動の実践を目指している。一人ひとりの生徒が、普通教育と専門教育の調和と深化を図ることによって、知性を磨き、部活動をはじめとする特別活動を通して人間性や体力の育成に努め、健全な精神と創造性豊かな感性を持って社会に貢献する人材となるよう指導し支援している。

また、小・中学生を対象とした「ものづくり体験教室」や「青井中学生美術展」等のものづくりの交流を通して地域との連携を深めるとともに、新しい総合的な工業科高校として、「ものづくりの中核校」「地域のものづくりの拠点」となるよう魅力ある学校づくりに努めている。

3 学校の現状と課題

人間力豊かなものづくりのスペシャリストである工業人の育成を目指す本校の教育活動は、学力向上のための学習活動、高校生として「けじめ」ある行動・態度がとれる生徒指導、望ましい職業観を身につける進路指導、生徒会活動や部活動等の特別活動指導などの核となる活動が相乗的に効果を上げることを期している。

ただ、生徒の中には学習習慣が確立されていない者も散見され、将来に対しても漠然とした印象やイメージしか抱いていない生徒もいるのが本校の現状である。このような状況を鑑み、いかに意欲的かつ継続的に具体的な日々の諸活動に取り組みせるかが、本校の課題である。

- ・総合的な工業科高校として、「ものづくりの中核校」となるよう、地域産業界や大学、研究機関等との連携を深めた学習活動を実践し、将来のものづくりのスペシャリストである工業人の育成を目指す。
- ・互見授業や生徒による授業評価の実施により授業の改善に努め、学習意欲を引き出す指導方法や評価、学力向上のための学習時間確保の対策等を検討する。
- ・各学科では、1年次から学科の特性を生かして専門性の深化を図り、2年次からのコース制や専門技術者等による授業等を積極的に実施し、魅力ある工業教育の展開を目指す。
- ・学校と家庭の情報の共有を図り、生徒としての節度ある行動・態度がとれる指導を通して、人格形成を目指した生徒指導を推進する。
- ・85%以上の生徒が部に所属しており、部の活躍や活動の勢いが学校の活性化に大きく貢献している。また、学校行事に対しても多くの生徒が積極的に取り組んでいる。
- ・2年生全員によるインターンシップの実施により、早期からの望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、生徒の多様な進路希望が実現できる進路指導を推進する。

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の向上と専門知識の習得に励み、工業人としての基礎を確立するとともに、自ら学ぶ意欲の向上を目指す。 ・検定や資格取得の充実及び各種コンテスト・コンクール等への挑戦。 ・普通教科（数学、国語）と各専門学科との連携により、家庭学習の習慣化を推進する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">重点1 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点1 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>年1回以上の互見授業や生徒による授業評価を実施し、生徒の学習意欲の向上と授業の改善を図る。</u> ・日常的な家庭学習の習慣化を推進するため、より効果的な学習課題を検討し、家庭での学習時間の確保を図る。 ・検定や資格取得に積極的に取り組ませる。 ・<u>本校独自の基礎計算力テストを1学期と3学期に実施し、生徒の学力の分析を進め、各教科間の連携を図り、工業科の生徒として必要な基礎学力の充実に努める。</u>
(2)	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的かつ積極的な学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立し、生活の乱れによる遅刻・欠席・早退をしない、規則正しい生活ができる。 ・朝のあいさつ運動、日常の生活指導を通して「はじめ」ある行動・態度と清潔で高校生らしい服装やマナーを身に付ける。 ・「保健だより」の年2回以上の発行により、健康に関する意識の向上を図る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">重点2 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点2 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学科、部顧問との連携を密にした面接指導を充実し、遅刻者の減少を図る。 ・全教職員の共通理解のもと、授業開始時や休み時間、放課後の部活動等、折に触れての継続的な服装指導により、再指導者の減少を図る。 ・<u>全職員による朝のあいさつ運動や各種の保健活動の実施により、健康に関する意識の向上を図り、朝寝坊や怠惰等、生活の乱れによる遅刻を減少させる。</u> ・ハザードマップの作成や<u>自転車点検を実施し、安全な登下校の意識を高める、交通事故の減少を図る。</u> ・定期健康診断等の結果や生徒保健委員会の活動を通して、健康に関する情報を発信し、健康保持のための自己管理を促す。
(3)	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが、その勤労観・職業観に基づいて、主体的な進路選択ができる能力を育てる。 ・進路選択を通じて、主体的な自己実現を図る。 ・インターンシップの充実、推進を図り、生徒一人一人のキャリアアップを実現し、進路選択時のミスマッチを低減する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">重点3 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点3 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>2年生全員によるインターンシップの充実を図り、早期からの望ましい勤労観や職業観を身に付けさせる。</u> ・工学系進学者を対象とした「基礎学力講座」等の特別指導を実施する。また、芸術系進学者の学力補充に対しては「絵画実技講座」等と併行した学習指導を早期から実施できるシステムの構築を推進する。 ・<u>全学年を通して、専門性を生かせる進路について考える機会をできるだけ多く設定し、就職者の割合を高くする。</u>

	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率85%以上を堅持し、学習との両立を図る。 ・各学校行事終了後、評価の調査を行い、満足度85%以上を目指す。 ・部活動参加者の充実感を調査し、満足度85%以上を目指す。 ・図書館利用や読書を推奨する活動を充実させ、生徒に利用のマナーを培うとともに、読書への関心・意欲を高め、主体的な読書習慣の定着を図る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">重点4 ①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">重点4 ②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>定着化する学校行事や活発な部活動について、生徒へのアンケートを実施し、その満足度や充実感を調査し、分析を行う。</u> ・定期的に各部長を集め、活動内容の把握や安全確認、活動の激励助言に努める。 ・<u>部顧問間の連携や家庭との連携を密にし、活動しやすい状況の設定に努めるとともに、継続する意欲を支援する態勢作りに努める。</u> ・生徒会便りに大会日程やその成果を掲載し、学校全体の雰囲気や生徒の気力を高める。 ・生徒会を中心として事前アンケートを実施して、生徒の意見の把握に努める。 ・各部署や部活動との教職員協力体制を見直し、連携を強化して行事内容や実施の充実化に努める。 ・読書に対する広報活動を拡充し、図書館利用の充実と読書率(図書貸出し数)の向上を図る。 ・1, 2学期末に全校一斉の朝読書週間(年2回)を企画し、全生徒が本に親しむ機会を設定する。 ・読書に関心を持たせる機会として読書会、輪読会(年2回)を実施し、その参加者を増やすとともに、図書館利用に対する意識を高める。 ・国語科との連携を図り、図書館を活用した授業の展開や読書を促す指導を推進する。 ・図書館だよりを発刊し(年9回)、推薦図書、新着図書の紹介等、読書に関する広報活動の充実を図る。
(5)	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校が連携を強め、共通理解のもとに活発なPTA活動を目指す。 ・開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進し、地域の方々より学校運営等について意見を聞く。 ・視聴覚室および視聴覚機器の活用を促進し、情報教育の活性化を図る。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">重点5</div>		<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等に合わせたPTA行事を計画し、保護者の参加率の向上を図る。 ・<u>PTA役員会の出席率を高め、役員としての意識の向上につなげる。</u> ・参加しやすい役員会の持ち方や、役員相互のつながりを強化する取り組み検討し、役員の関わり度を増加させる。 ・PTA、同窓会、学校評議員、地域諸団体等に学校ホームページなども活用して、本校の教育活動を広く紹介するとともに、地域との連携を深める。 ・コンピュータ室の授業支援ソフトや、情報機器の使い方の講習を実施し利用の促進を図る。 ・視聴覚ライブラリーの充実努めるとともに、利用の予約方法を一元化し使いやすい環境を育成する。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成23年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、基礎学力の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣がない生徒が多いことから、学ぶ意欲を高め、学ぶ姿勢の改善に向けた働きかけが必要である。また、授業の指導においても工夫・改善を図り、よりわかりやすい授業を追求する必要がある。 ・中学校程度の基礎的な計算力を確実に身に付けさせるため、学校独自の基礎計算力テストを実施してきた。ただし、正答率があまり向上していないため、より効果的な対策が求められる。 ・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。 ・生徒に対して全科目のシラバスを公表し、わかりやすい授業の実施に取り組んでいる。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業と授業アンケートの実施 ・授業見学およびアンケートを年1回以上 	基礎計算力テストの実施と分析 年2回実施、正答率70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導計画において、指導方法を工夫・改善する単元や学習項目を明確にしておく。 ・他の教員の授業を見学し、授業改善の参考とする。 ・生徒に対する授業アンケートを実施し、生徒自身に学習態度の振り返りをさせて学ぶ姿勢の改善を図るとともに、指導者自身の授業改善策の参考とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた基礎計算力テストを継続的に実施する。(4月と年度末の2回) ・特に正答率が低い設問に注目し、全ての設問で正答率70%以上となるように関係教科で工夫して指導する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成23年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	安定した生活習慣の形成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、寝坊や怠惰による遅刻は203回（一人当たり年間 0.27回）で、前年度比で22%減となったが、複数回遅刻している生徒が47人、のべ125回で全体の60%を占めている。遅刻癖のついている生徒に対してより安定した生活習慣の形成を目指す必要がある。 ・昨年度、登下校時の交通事故は8件で、昨年度より8件の減となった。事故の内訳は、自転車と自動車による接触がほとんどで、自転車運転時の交通ルールの徹底や危険箇所を提示し、より安全な登下校を促すよう指導する必要がある。 	
達成目標	寝坊や怠惰により遅刻する生徒の減少 ・1人当たり年間0.27回以下(のべ200回以下) ・複数回遅刻する生徒の減少(30人以下)	登下校時の交通事故の減少 ハザードマップ制作完了(100%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回遅刻した生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、生活習慣の改善を図る。 ・「あいさつ運動」の継続実施。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の事故現場を地図上で示す交通事故ハザードマップを作り、危険箇所を生徒に知らせる。 ・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。 ・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施し、意識の高揚を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成23年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-		
重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ。	
現 状	・各方面の協力を得て実施した2学年の「インターンシップ」に関するアンケートの結果は、「進路を考える良い機会になった」と回答した生徒が約82%であった。	・昨年度、就職した生徒のうち専門性を生かせる企業に就職した生徒は約80%、進学した生徒のうち専門性を深めるために関連分野の大学・短大へ進学したものは80%、専門学校では42%であった。
達成目標	インターンシップの満足度(2学年)	専門性を生かせる進路の選択
	85%以上	就職85%以上、進学(4大、専門学校合わせて)70%以上
方 策	・本校の2学年で全員インターンシップ実施は、ほぼ定着してきている。今年は、内容の充実を図りたい。学年と協力し、各学科教科の専門性を生かした実習先の確保に努め、生徒たちが、インターンシップを通して、より専門科目に興味を持ち将来の進路選択できるように指導する。	・1年時には、ガイダンスやホームルーム等を利用、2年時にはインターンシップや実習等の授業で、3年時には課題研究等の授業で、本校の地域社会へ貢献や卒業生が工業の現場で活躍していることを紹介し、地元企業への関心を高めさせ進路先を決定できるようにする。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成23年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-		
重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事の前にはアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが、事前準備や議会の活発化など、十分とはいえない現状にある。 ・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は95%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。	
達成目標	主たる活動において満足と回答する生徒の割合	部活動継続率
	85%以上	85%以上
方 策	・各行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度をはかる。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。(昨年度、球技大会で目標の85%に達しなかったため、実施時期を1週間遅らせて準備の時間をとった。後期生徒会が立ち上がってから球技大会まで時間が少なかったため) ・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会便りを通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い継続率を調べる。そして、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成23年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -5-	
重点項目	その他
重点課題	PTA役員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動を煩雑で面倒なものと捉えている保護者が多く、クラス役員でも全く参加されない方もおられる。 ・PTA各行事への一般会員の参加が少ない。 ・生徒を通じてPTA行事の案内をしているが、保護者に渡らない場合がある。
達成目標	役員会の出席率 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。 ・PTA通信やホームページなどを利用して活動を積極的に発信する。 ・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。 ・役員相互の和気あいあいとした雰囲気の醸成に努める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)